

April 2010

ONIX:
an introduction to a family of standards
スタンダード全体構成のご紹介

EDITEUR

EDItEURについて

- ▶ ロンドンに本拠を置く、書籍・雑誌についての世界の流通用スタンダードを管理する団体。
 - ▶ 1991年設立
 - ▶ 18カ国からの構成員による非営利団体
- ▶ メタデータと識別規格を幅広くサポート、利用促進させている。: 利用対象機関は、出版社、取次店、外国雑誌取次、書店、図書館、システム開発企業。
- ▶ 国際ISBNコード庁の事務局機能も持つ。
- ▶ 次のスタンダードを開発、管理している。
 - ▶ EDI
 - ▶ RFID
 - ▶ ONIX family of metadata communications standards

▶ **EDItEUR**

ONIX – 起源

- ▶ 元々はAAP (Association American Publisher)の“Digital Issues Working Party”が主導。
 - ▶ 書籍の電子販売のサポートとして“もっと充実したメタデータを”の声に応えるもの。
 - ▶ “メタデータが全て”
- ▶ **ONIX**
- ▶ **ON**line **I**nformation **eX**change
 - ▶ EDItEURが、BISG (Book Industry Working Group, US) とBIC (Book Industry Communications, UK)との密接な協業により開発。
- ▶ 今や“ONIX for Books”はすべてのONIXスタンダードの礎の位置を確立した。

ONIX ファミリーの中核機能

- ▶ XML
 - ▶ エンコード、有効化の一般的なアプローチ
- ▶ Designed for global application (国際的なアプリケーションに対応)
 - ▶ 利用は自由
 - ▶ 基本構造を保持しつつ、汎用性に富み、ローカル仕様に対応できる。
 - ▶ 利用目的に応じて、適正なローカル対応を行うことが望ましい。
- ▶ Reuse of key structures and semantics within and between message families (中核構造と定義は全仕様で共有)
 - ▶ 例 顧客名、住所、タイトルの組み合わせ
 - ▶ コード表のシェア
- ▶ Separate message structure from code values (コードの値・コードリストから分離したメッセージ構造)
 - ▶ コードリストのアップデートが簡便な上、既存リストとの互換性も保持
 - ▶ コード表は反論・非推奨されても廃止されることはない。
 - ▶ 特にONIX for Books 3.0のような下位互換を失うような大きな変更が発生する際には絶対に必要な機能

ONIXファミリー全体構成

- ▶ ONIX for Books (Release 3.0 – April 2009) (書籍商品情報)
- ▶ ONIX for Serials (soon to be ONIX for Subscription Products) (シリーズ商品情報→近々、雑誌商品情報となります。)
 - ▶ ONIX-SOH – Serials Online Holding (Release 1.1 – June 2007) (電子商品購読情報)
 - ▶ ONIX-SPS – Serials Products and Subscriptions (Release 0.92 – June 2008) (商品情報)
 - ▶ ONIX-SRN – Serials Release Notification (Release 0.92 – May 2008) (近刊予定情報)
- ▶ ONIX for Licensing Terms (契約管理のためのONIX)
 - ▶ ONIX-PL – Publications Licenses (Release 1.0 – December 2008) (出版権)
 - ▶ ONIX for RROs (Reproduction Rights Organization) (再版/再利用権)
 - ▶ ONIX-DS – Distributions (Release 1.0 – February 2008) (権利移動)
 - ▶ ONIX-RP – Repertoire (Release 1.0 – February 2008) (既刊書籍の集積)
- ▶ ONIX for identifier registration (メタデータ) (後述)
 - ▶ ONIX-DOI (Release 1.1 – February 2008)
 - ▶ ONIX-ISTC (Release 1.0 – August 2008)
 - ▶ ONIX -ISSN (in development)

ONIX 書籍商品情報

▶ 流通している書籍に幅広く普及

- ▶ リッチな商品メタデータを保有する書籍スタンダード
- ▶ MARCの代替と言った装備規格ではないが、流通だけではなく図書館での利用も広がっている。

▶ **ONIX for Books International Steering Committee**による統制

- ▶ 15ヶ国の地域別ONIX委員会からの代表者が集まる。
- ▶ 地域別委員会 (BISAC (Book Industry Standard and Communications)を含む。)が各地域に適正な実装ガイドライン策定のために協力。

(上記組織の紹介サイトではカナダ、オランダ、ドイツ、英国、米国の書協へのリンクが張られている。)

▶ リリース記録 Release History

- ▶ Release 1.0 in 2000
 - ▶ 1.1 in 2000
- ▶ Release 2.0 in 2001
 - ▶ 2.1 in 2004
- ▶ Release 3.0 in 2009

ONIX for Books Release 3.0(書籍商品情報3.0)

- ▶ 2009年夏にニューリリース
 - ▶ ONIX International Steering Committee はリリース2.2にはない新しい要求を盛り込んだ。－既存情報との互換性なし。
 - ▶ 基本課題:ebook対応は、大幅な構造変更無しには達成できない。
- ▶ リリース 3.0の主な特長
 - ▶ 基本構造は変化なし。
 - ▶ 次の対応は改善:
 - ▶ デジタル商品 (ebooks他)
 - ▶ 複数媒体商品、セットやシリーズ商品
 - ▶ マーケティング付帯事項
 - ▶ 世界的に広く販売されている商品についての特定情報
 - ▶ 商品情報のブロック化により部分変更をしやすくした。
 - ▶ 使わなくなった非推奨要素を排除
 - ▶ 新スキーマ言語を追加

ONIX 書籍商品規格－追加情報

- ▶ EDItEUR website
 - ▶ <http://www.editeur.org/83/Overview/>
- ▶ National ONIX for Books committees
 - ▶ <http://www.editeur.org/16/Maintenance-and-support/#national%20groups>
- ▶ ONIX for Books Implementation listserv
 - ▶ <http://www.editeur.org/16/Maintenance-and-support/#listserv>
- ▶ BISG ONIX for Books Webcasts (download presentations)
 - ▶ <http://www.bisg.org/events-6-438-bisg-webcastonix-30-an-introduction.php>
 - ▶ <http://www.bisg.org/events-6-439-bisg-webcastonix-30-best-practices-for-implementation.php>

ONIX 雑誌商品情報

- ▶ NISO (National Information Standard Organization)との協業により開発
- ▶ 汎用対応を目的とした個別そして複合要素、定義による“ツールキット”
- ▶ 様々なアプリケーション用のフォーマット(個別・複合要素と値の定義)を構築するためのツールキット。
 - ▶ メッセージ群を同じスキーマをベースとしたファミリーとしてグループ化。
 - ▶ 全ての仕様が、基本構造とコード表を共有することで、実装と運用が簡便。
 - ▶ 幾つかの仕様は、テスト中の段階ですぐにリリース1.0を発表できない。
- ▶ 雑誌サポートを主な目的として設計
 - ▶ 現在は、潜在的役割を見直し、雑誌だけではなく、e-book購読商品サポートを視野に入れて再評価をしようとしている。
- ▶ ICEDIS (the International Committee for EDI in Serials)が雑誌ONIX商品情報を開発中であり、これは1980年代に開発され長期使用していたフォーマットに代わるものである。

EDITEUR

メタデータ登録のためのONIX

- ▶ ONIX for DOI Name Registration format
 - ▶ DOI (Digital Object Identifier by CROSSREF) 利用団体のための登録
 - ▶ DOI登録機関の必要項目を盛り込んだ、DOI登録のためのメッセージ仕様/フォーマット。
 - ▶ DOIは書籍そのものやさまざまなタイプの部分情報に紐づいている。: 研究論文、章や書籍の一部、シリーズ、巻号、...
 - ▶ 別仕様に準拠した単一XMLスキーマ
- ▶ ONIX for ISTC registration
 - ▶ 世界に展開する ISTC (The institute of Scientific & Technical Communication) に登録情報を送るための開発。そして、ISTCは登録者に結果をフィードバック
- ▶ ONIX for ISSN registration
 - ▶ 検討中

まとめ

- ▶ ONIX は単一メッセージや単一メタデータ・スキーマではない。-XMLベースによる複数の仕様で構成される全体構成である。
- ▶ これらのメッセージは共通コンセプト、構造、語彙に基づいている。-その目的は実装を簡便にすることと相互運用性を高めること。
- ▶ 各メッセージは特定の利用目的のために、各ユーザーコミュニティとの密接な協業の上、個別設計されている。
- ▶ ONIX は常に進化し続けており、メンバーの新しい要求に応じている。-これからも新しいメッセージや既存メッセージの修正についての提案を歓迎する。

www.editeur.org

Thank you

